

# 京都府名誉友好大使レポート集



2023年12月

京都府国際課

# 目 次

※名前またはタイトル部分をクリックすると、該当ページにリンクします。

<a href="#"><small>しゅう とくけん</small> 修 徳健「コロナと教育の変革」</a> . . . . .	1
(平成5年度任命・山東省出身・青島市在住)	
<a href="#"><small>しょう しんウ</small> 邵 振宇「付き合いが長い京都と長安」</a> . . . . .	3
(平成18年任命・陝西省出身・西安市在住)	
<a href="#"><small>たん ねい</small> 単 寧「1日5分の奇跡」</a> . . . . .	5
(平成18年任命・山東省出身・神奈川県厚木市在住)	
<a href="#">ザオプトラ アントニウス アンドレ「世界と仕事する危険」</a> . . . . .	6
(平成26年度任命・インドネシア出身・神戸市在住)	
<a href="#">サンパキッジ ピラヤー「京都は私の中にある」</a> . . . . .	8
(平成26年度任命・タイ出身・フランスナント市在住)	
<a href="#">ドウガール アレクサンドリア メリー</a> <a href="#">「カナダのノヴァ・スコシア州のリンゴの花」</a> . . . . .	11
(平成26年度任命・カナダ出身・東京都在住)	
<a href="#"><small>なん きょくけい</small> 南 玉瓊「20世紀前半のハルビンと日本」</a> . . . . .	13
(平成26年度任命・黒竜江省出身・東京都在住)	
<a href="#"><small>りゅう ひろこ</small> 劉 泓子「コロナで大切な人を失う時」</a> . . . . .	16
(平成30年度任命・上海市出身・大阪市在住)	
<a href="#"><small>きょ しゅんい</small> 許 俊暉「京都のオーバーツーリズムについて」</a> . . . . .	18
(令和元年度任命・香港出身・京都市在住)	

<small>キン エキエイ</small> <b>金 亦衛</b> 「活動報告」	20
(令和元年度任命・上海市出身・京都市在住)	
<small>コウ ビョウ</small> <b>黄 媚陽</b> 「点描の幸せ」	21
(令和元年度任命・天津市出身・東京都在住)	
<b>サブーナス アウドリュース</b> 「ベルギー人の親日性」	23
(令和元年度任命・リトアニア出身・東京都在住)	
<small>ソウ エンム</small> <b>宋 圓夢</b> 「コロナ後の中国社会」	26
(令和元年度任命・浙江省出身・京都市在住)	
<small>オウ エンブン</small> <b>王 艶文</b> 「現場へ」	29
(令和3年度任命・河北省出身・京都市在住)	
<small>オウ テツ</small> <b>王 哲</b> 「フルンボイル市の紹介」	31
(令和3年度任命・内モンゴル出身・京都市在住)	
<small>カク キンウン</small> <b>郭 謹芸</b> 「六朝の古都、南京」	33
(令和3年度任命・江蘇省出身・京都市在住)	
<b>ティンザー ニン</b> 「多文化の類似性と相違性」	34
(令和3年度任命・ミャンマー出身・京都市在住)	
<small>ヨウ ガイン</small> <b>楊 雅韻</b> 「泉州の宗教文化」	36
(令和3年度任命・福建省出身・京都市在住)	
<small>リ ハン</small> <b>李 帆</b> 「祇園祭とボランティア活動」	39
(令和3年度任命・山西省出身・京都府在住)	
<small>リュウ ギマン</small> <b>刘 議蔓</b> 「京都をおもふ」	43
(令和3年度任命・四川省出身・東京都在住)	

リョウ ホイヤン  
梁 凱欣「蕎麦派？ 饅頭派？」 . . . . . 4 5

(令和3年度任命・香港出身・京都市在住)

エン ツキ  
袁 月「ミャオ族の県—彭水」 . . . . . 4 7

(令和4年度任命・重慶市出身・京都市在住)

チョウ ゲツ  
張 珺「故郷の食文化について」 . . . . . 5 0

(令和4年度任命・河南省出身・京都市在住)

チン アキホ  
陳 秋帆「京都と上海の懐かしい古い町並」 . . . . . 5 3

(令和4年度任命・上海市出身・京都市在住)

マ インテイ  
馬 韻婷「花火」 . . . . . 5 5

(令和4年度任命・遼寧省出身・京都市在住)

ユン スヨン  
尹 粹娟「名誉友好大使として「日韓関係」を語る」 . . . . . 5 7

(令和4年度任命・韓国出身・京都市在住)

リ マツ  
李 沫「私のお正月」 . . . . . 5 8

(令和4年度任命・湖北省出身・京都市在住)

※居住地は令和5年3月現在

## <コロナと教育の変革>

氏 名：修 徳健（シュウ トクケン）  
任 命 年 度：平成5年度任命  
出 身 地：中国山東省青島市  
在 住 地：青島（市）在住



2020年からのコロナ禍は、教育の現場に影響や変革をもたらしている。

大学では、授業は対面授業とオンライン授業の両形式によって続けられてきたのである。

中国では、2020年から2022年にかけてほぼ3年間の間は、コロナゼロ対策の実施により、学校ではPCR検査で問題がなければ、基本的に対面授業が行われてきたのである。そういう意味では、大学の場合、2020年度生でも最初から大学の構内に入って授業を受けることが保障され、新入生で最初から大学の構内に入ることができずにオンライン授業の形で大学生活を始めたことよりはそれなりに意味があったと思うのである。その過程において、入学の時期については、感染者数の多い地域や少ない地域にわけて決め細かい対応により、ずらしたり遅らせたりすることがあったが、基本的に大学生に大学の構内に入ってもらう勉強できるように手配していた。中国では、大学は基本的に全寮制で、寮は構内にあるため、いったん構内に入れば、安心して暮らすことができるというメリットがコロナ対策に生かされている。（もちろんマスク着用などの対策は必須）そのような対策のおかげで、私の勤めている中国海洋大学では、あまり感染者が出ないまま3年間なんとか教師と学生ががんばってきたのである。コロナのリスクはむしろ大学の外部からのものでした。つまり大学の所在地である市や区の規制などにより、授業は一時的に対面からオンラインモードに切り替えられたりすることが強いられてきたのである。

オンライン授業は2020年の2月末に最初に行われていた。そのための講習会や研修会は、2020年の1月あたりから始まっていた。大学では、そのためのオンラインシステムをいち早く整えるように準備して、教員と学生向けに講習会を開いて使用できるように積極的に体系的に指導してくれた。そのようなことができる背後には、中国国内の大手の通信技術会社 tensent（腾讯）によるオン

ライン会議ソフトの開発と一般化、BB や ClassIn などのような教育専門の発信システムの整備があったためであろう。世界や中国における科学技術の進歩に実感させられる形となっている。授業をより効果的に行うための機材などもネット販売を通じてすぐに手に入れられるおかげで、授業は教員各自の工夫により、リアルに行ったり、それに授業に出られない学生のために録画してオンデマンドで見てもらったり、オンラインと対面で同時に教室で行ったりするなどいろいろな形で全体的に歩調を合わせるようにして行われてきたのである。危機のもとで何とか大学の教育活動が保証されてきたといえる。これはまた社会のデジタル化に伴う大学教育の未来の姿について考えさせられるきっかけともなっている。

2022 年末になって、コロナゼロ対策は緩和され、今は 2023 年の春節を過ごしています。久しぶりに自由な帰省が実現され、各地で旧正月を一家団欒してにぎやかに過ごそうという報告などを見て安堵な気持ちでいる。もうすぐ春学期を迎える。コロナとの戦いを今後も続けていくことを念頭にして、通信技術に支えられる新しい教育の未来像を描きながら準備に取り組んでいるところである。

## <付き合いが長い京都と長安>

氏 名：邵 振宇（ショウ シンウ）  
任 命 年 度：平成18年度任命  
出 身 地：中国 西安市  
在 住 地：西安（市）在住



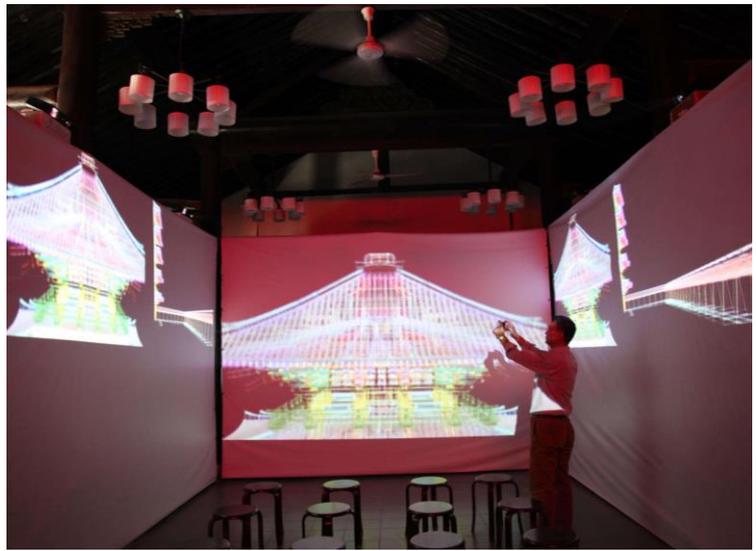
私が日本に留学した8年目の時、京都府名誉友好大使に任命されました。その時、私は京都市立芸術大学の博士後期課程で歴史遺産の保護と活用を研究しながら、指導教官である池上教授が主導している京都東寺の古い建築デジタル化研究も参加していました。平安遷都と共に建立された東寺は、嵯峨天皇の時に唐の長安で新しい仏教、密教を学んで帰国した弘法大師空海に託しました。ここに、日本ではじめての密教寺院が誕生しました。京都市立芸術大学にいた間に、池上教授と一緒に、中国で京都東寺建築のデジタル図面とアニメーションを何回も展示しました。展示の場所は、当時空海が密教を学んでいた長安城青龍寺の遺跡です。



京都東寺デジタル展のポスター(本人撮影) 西安市青龍寺惠果空海記念堂(本人撮影)

延暦23年(西暦804年)、空海は唐の都である長安に入り、唐の国師であり、正統な密教を受け継いだ僧、恵果がいる青龍寺を訪ねました。まもなく、空海は正統な密教の師となる伝法阿闍梨位の灌頂を受けて、真言密教の第八祖となりました。それと共に、恵果は密教法具、経典、犍陀穀糸袈裟、仏舎利など等を空海に授けました。そして、出会って6ヶ月後、真言第七祖、恵果は静かにご入滅になりました。空海に授かった密教法具は、空海と一緒に日本に来て、現在も東寺の後七日御修法で使われ、犍陀穀糸袈裟も寺宝として残り、仏舎利は、生身供の法要で用い、お舎利さんと呼ばれ親しまれています。今、空海

が密教を学んでいた長安城青龍寺の遺跡では恵果と空海の記念堂が建て、空海の記念碑もあります。



西安市空海記念碑（本人撮影） 空海や京都東寺を紹介した講演会を準備した時の私

2017年、日本の小説家夢枕獏の「沙門空海」に基づいて撮影した映画「妖猫伝」が中国で上演し、主人公である空海は日本の俳優染谷将太さんが出演しました。中国では大人気になって、人々は弘法大師空海の伝説に興味を持っていました。

私は2009年中国に帰国後、出身地である西安市の歴史遺産に関する保存や観光計画等を研究しています。昔、ここは長安と呼ばれ、唐時代の都で、空海が中国で活動した地域です。去年、青龍寺周辺の観光計画をやっていた時、市民に向けて、弘法大師空海をはじめ、さまざまな遣唐使や学問僧達を中心として、唐時代の国際交流をテーマとする講演会を開き、付き合いが長い京都と長安の歴史を来場者に紹介しました。

今年も京都府名誉友好大使として、積極的に出身地と京都の間に友好の橋を架けたいです。

## < 1日5分の奇跡 >

氏 名：単 寧（タン ネイ）

任命年度：平成18年任命

出身地：中国山東省

在 住 地：厚木市在住



私は社会人になってから、いろいろな体験をしましたが、会社の全社員でやる企画のアイデアを出し、初めて採用されたのは最近のことでした。

とある本に「いきなり大きなことをやろうとすると、三日坊主になる可能性が高いから、毎日極短時間でも良いので、チャレンジしたいことをやってみよう」という趣旨の内容がありました。簡単なことですと続けられることは何だろうと思って、まず5秒でできることをしてみることにしました。毎日体重計に乗って、体重を測って記録することを半年以上にやってみました。そうすると、わりと苦痛にならずに少し体重のコントロールができるようになりました。

それがきっかけで「1日5分の奇跡」というテーマで、みんなで毎日5分間何かをやって、一年後結果を発表するような企画が誕生しました。本来は小学生がやるようなことですが、社会人がそれぞれ夢を持ってやるというのはなかなかおもしろいと思います。社内でまずみんなに何をやるかという調査が行われ、回答の中には体重約100キロの方が健康のため、トランプリンをチャレンジするという驚きの内容もありました。案の定、短期間でトランプリンが壊れてしまいましたが、私は発想そのものに満点をつけたいです。そのほか、5分以内に「二重飛びを50回にする」と目標設定をした50代の同僚もいました。彼は京都の将軍塚で二重飛びしたりしてしました。家族にビデオの撮影もしてもらっていました。結構かっこいいです。ちなみに、私は少しずつですが、書道の練習をしています。学生時代と違って、自由に書けるという感覚は最高です。

たぶん人生を楽しむには常に何かおもしろいことをしようとするところが大切です。私は「1日5分の奇跡」が誰かの青春を保つ鍵になれるとうれしいです。

## <世界と仕事する危険>

氏 名：ANTONIUS ANDRE ZAOPUTRA  
(アントニウス アンドレ ザオプトラ)  
任 命 年 度：平成26年度任命  
出 身 地：インドネシア  
在 住 地：神戸市在住



新型コロナ、改め、コロナ2019が流行してはや3年半たちました。様々な制限の中、皆は日々生活に頑張っているでしょう。私も2020年にコーヒー専門商社に転職して、3年目の今年はやっと海外出張に行かせていただくことになりました。人生初めての訪れたコーヒー産地は中南米にあるコロンビアとグアテマラで、1月中旬～下旬まで1週間ずつ滞在しました。

外資系商社に働き始めて、海外の方と日本人との働き方の違いを改めて考え直す機会が増えました。メール文章の書き方であったり、電話や会話、交渉するときの言葉選びや口調など、細かいところまでいろいろ学ぶことが多いです。また、今回の出張で実際に彼らがどういった環境で働いているかを見て、その文化に触れることが多かったです。

今回の出張はトレーディングを含め、今年の中南米のコーヒーの収穫を視察することです。アテンドしていただきましたグループ会社のトレーダーだけじゃなくて、山奥に住んでいるコーヒー生産者とたくさんお話ししました。日本で働いているから、もちろん日本人の好みや日本市場、日本文化いろいろ知って紹介しましたが、日本人から見て外国人である私は、外国人の視点から日本をお話しすることもできました。話をすると、彼らは日本人や日本の文化に不思議と感じて、感動したり頭を傾げたりします。日本人には当たり前の「街中にはゴミ箱がない」「長蛇の列」「空気を読む」など、住めない、わからないものばかりです。

話が少し変わりますが、私には東京で働いているインドネシア人の友達がいいます。友達と言えるほど仲がいいわけではなく、ただ高校が同じだけであって話したことはありません。彼はインドネシアで大学を卒業し、なぜかいきなり東京で海外送金関係の会社で仕事して、5～6年が経ったような気がします。ただ、気になることがあります。彼の人生には何が起きたかわかりませんが、Facebookでずっと日本人や日本の悪口ばかりを投稿して、読むたびに嫌な気持ちになりました。どちらかと言いますと、私は親日ですから、彼の投稿には全く賛同できず怒りを覚えるのです。個人的には日本文化が他のアジア、そして全世界の国々よりも

独特で説明がつかないものばかりです。それをプラスに捉えている人もいればマイナスのものもあります。外国人が日本に長く働くことには、日本語という分厚い言葉の壁に加え、この独特な文化に慣れることが必須条件だと思います。外国人側も必死に努力すると同時に、日本人側も相手が外国人であることを忘れないでほしいです。理解が得られないといくら日本が人材不足で外国人受け入れ緩和とか言い出しても、人も来ないし、最悪ニュースに流れている虐待であったり、そして、アメリカみたいな人種差別に発展していくのみです。世界と働くことはかっこよく聞こえますが、本当の世界を知らない若者が甘く見ていると、災いの種にもなりかねない。そこで、外国人がたくさん住んでいる京都に住んでいる皆さんに、ぜひ様々な海外の文化を知って、触れて、そして理解していきましょう。コロナ 2019 が開けたころには、より繁盛でより安全な世界を作っていきませんか。

## < 京都は私の中にある >

氏 名：サンパキッジ ピラヤー  
任 命 年 度：平成26年度任命  
出 身 地：タイ  
在 住 地：フランス（ナント市）在住



時間は飛ぶように過ぎ、気づいたらもう2023年になりました。ここ数年、いろいろと忙しくて書く楽しみを忘れてしまいました。このレポートは、私のストーリーを読者に伝えるだけでなく、私の考えを整理するものでもあります。

最近読んだ『一度しかない人生を「どう生きるか」がわかる100年カレンダー』という本をきっかけとして、自分の生まれた年の0歳から100歳にいたるまでの100年カレンダーをつくってみました。京都を離れて5年になりますが、京都での経験は常に私の価値観や生き方に影響を与えていることがはっきりと見えました。自然の恵みに感謝すること、伝統の大切を次世代に伝えること、使えなくなったものをどうにか美しく修理する金継ぎのような発想力、相手に対して心をこもった「おもてなし」など、京都府名誉友好大使を通して得た日本哲学を忘れずに生きていきたいです。



京都造形芸術大学の卒業式で袴を着ました

私は現在、家族とフランスのナント市に住んでいます。グラフィックデザインの仕事をしながら、持続可能な暮らしへ向け、できることからコツコツやっています。地元の商品を買う、毎日のゴミを減らす、自転車で通勤するなど、地球にやさしくするように心がけています。日本にいたときと同じように、四季折々の自然の美しさを楽しんでいます。



オーガニック果樹園でのりんご狩り



秋の森でキノコ採り

フランスには、日本が好きな人がたくさんいることを嬉しく思います。私が住んでいるナント市には、その人たちが集まるコミュニティがあり、日本文化を通して楽しいひとときを過ごしています。京都に住んでいたことがある人にも何人がいて、懐かしい思い出を話して仲良くなったり。私はすぐに日本へ行くことができないので、フランスの日本庭園をいくつか訪れました。





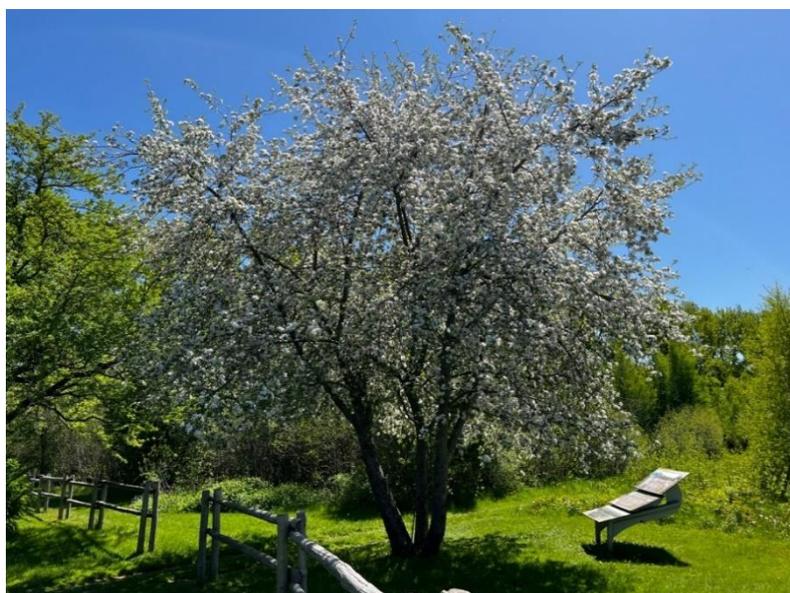
私の住んでいる街の日本庭園

例えば、箸を使うことが日本人にとって平凡な日常ですけれど、世界中の多くの人は箸を触ったことがないです。アパートに遊びに来てくれた友達に箸の使い方を説明して、皆が失敗しながらも笑って箸で食事してみました。そのような新鮮な体験を届けることができ、楽しいひと時を過ごしました。

花から花へと花粉を運ぶ鳥のように、旅をする人々はそれぞれの文化や個人的な経験を持ち寄ります。意識の有無にかかわらず、調和の取れた新しい文化が生まれ、ある意味では京都とフランスの架け橋の活動の一つではないかと思えます。

## <カナダのノヴァ・スコシア州のリンゴの花>

氏 名：ドゥガール・アレクサンドリア  
任 命 年 度：平成26年度任命  
出 身 地：カナダ  
在 住 地：東京都在住



(自分で撮った写真です)

皆さんのカナダのイメージは、寒い雪の国でしょうか？カナダの花については知っていますか？カナダの東側のノヴァ・スコシア州のアナポリス・バレーという場所には、とても綺麗なリンゴの花は春（5月頃）に咲きます！

カナダの冬はもちろん長くて寒いのでカナダ人は結構春を楽しみにします。チューリップとかバラとかラッパズイセンの花は割と普通に州の首都のハリファックスの町のガーデン（例えば The Public Gardens）、州の人々の家の庭で見られるけれど、それだけではなく、リンゴの花もノヴァ・スコシア州では有名です。

上の写真は私がグラン・プレ (Grand-Pré) という長い歴史のあるフランス系 (アカディ) の場所で5月に撮った写真です。満開のリンゴの花です！このリンゴの花は桜みたいな白い花です。青空とのコントラストが綺麗で、とても春っぽかった！

ノヴァ・スコシア州は特に暖かい春と夏は観光客が多くなります。観光のシーズンの始まりの時期 (この場合は5月末) にはノヴァ・スコシア州のアナポリスバレー (Annapolis Valley) という場所はリンゴの花のお祭りもあります。1933年に始まったイベントです。<sup>1</sup> パレード、パーティー、その地域の農業に関するアクティビティーなどがあります。<sup>2</sup>

それでは皆さんはカナダまでの旅行を予定しようとしたら、春はいかがでしょうか？そして、東側のノヴァ・スコシア州はいかがでしょうか？5月のリンゴの花を楽しもう！

---

<sup>1</sup> *89th Annual Annapolis Valley Apple Blossom Festival*, Nova Scotia Canada, Accessed 14 Jan 2022, <https://www.novascotia.com/events/festivals-and-events/88th-annual-annapolis-valley-apple-blossom-festival/-4352>.

<sup>2</sup> *88th Annapolis Valley Apple Blossom Festival*, Apple Blossom Festival Committee, 2021, Accessed 14 Jan 2022, <https://www.appleblossom.com/>.

## <20 世紀前半のハルビンと日本>

氏 名：南 玉瓊（ナン ギョクケイ）

任 命 年 度：平成26年度任命

出 身 地：黒龍江省

在 住 地：東京都在住



黒龍江省の中南部、松花江の東河畔に位置するハルビンは、19 世紀末までは 4、5 軒の民家が点在する沼地であった。しかし、1898 年春、帝政ロシアが清朝と旅順大連租借条約を結び、ハルビンから大連に至る南満州支線の敷設権を獲得したことで、ハルビンは帝政ロシアによる満洲支配の拠点として急速に発展する。

1905 年、日露戦争で勝利した日本は大連 — 新京〔長春〕、安東〔丹東〕 — 奉天〔瀋陽〕の鉄道を獲得し、1906 年にこれらの鉄道を経営する南満洲鉄道株式会社が設立された。だが、ハルビンはロシア（あるいはソ連）の満洲支配の拠点であったことから、新京以北の鉄道経営権は日露戦争後も日本の手には渡らなかった。

満洲国は 1932 年からソ連との交渉を開始し、1935 年 3 月に東支鉄道の買収に成功した。東支鉄道は国線の北満鉄道として、満洲国内の他の鉄道と同様に満鉄が経営することになった。同年 9 月には、特急列車「あじあ号」の運転区間がハルビンまで延長され、日本人の進出も加速した。

異国情緒あふれるハルビンが、日本人にとって憧れの街であったことが、「歓楽の都市ハルピンに遊ぶ(抒情絵葉書)」(下図)などの絵はがきの文言から伝わってくる。



題名：歓楽の都市ハルピンに遊ぶ(抒情絵葉書)

出处：学習院大学国際センター「古写真からアジアを見る」

[<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/geore/research/2015a/harbin.html>]

最終閲覧日：2023年2月28日

ハルピンは、満洲鉄道の最北であり、ロシア人が作った街である北側に松花江（スングアリー）が流れ、中国人の商業都市である四家子（東傅家甸）と傅家甸（道外）、倉庫や工場のあった八区、国際商業都市であった埠頭区、スラム街であった新安埠、鉄道会社の施設・社宅・官庁・各国領事館があった新市街（南崗）、1920年代以降に作られた閑静な郊外住宅地である馬家溝、ロシア最初の入植地であった香坊といった地区に分かれていた。

ここで、満州への日本人移民の推移について見てみよう。いわゆる農業移民だけではなく、都市部への移民もたくさん存在していた。つまり、日露戦争後、日本が勝利したことにより、ロシアの租借地であった大連を接收した。大連をはじめとして、だんだん移民が流入し、満鉄附属地にもたくさん移民が移住してきた。初期移民というのは大体、警備隊等を除隊した後現地に残り、土地を買って移民するという形になっていた。

満洲国成立後は、国防上、ソ連に対する帝国間の力学により、いわゆる試験移民を始めた。武装移民とも言われたが、5回にわたって行われた。その後、盧溝橋事件前後になって、今度は国策移民が進められた。当時の政府は20年間で100万戸を移住させるという政策を出していた。その中、青少年義勇軍（義勇隊）は1938年から満洲に移動した。

上記以外に自由移民も数多くいた。農業移民、林業移民、工業移民、漁業移民、そして商工移民もいた。また、天理教が率先して満洲に行き、天理村も作った（劉、2013）。

本稿では 20 世紀のハルビンと日本との関係を、ハルビンの略史と満州への日本人移民を通じてみてきた。ただこれらは氷山の一角にすぎず、興味のある方はぜひ調べてみてください。

参考文献・URL

学習院大学国際センター「[古写真からアジアを見る](#)」

[<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/geore/research/2015a/harbin.html>] 最

終閲覧日：2023 年 2 月 28 日

劉建輝（2013）「地図と写真から見る満洲移民と現地社会」『人間文化』21 号、1-44 ページ。

## <コロナで大切な人を失う時>

氏 名：劉 泓子（リュウ ヒロコ）  
任 命 年 度：平成30年度任命  
出 身 地：中国上海  
在 住 地：大阪市在住



まずは簡単な近況報告ですが、私は今年(2023年)の1月現在は博士課程の2年生として在籍しています。

私の出身地は上海です。これまで厳しいコロナ政策と隔離制度のため、すでに3年以上も上海へ帰省できていません。日本でも度々ニュースに取り上げられています。中国のコロナ政策は二転三転した末に、昨年(2022年)の年末12月頃に、上海ではゼロコロナ政策が全面的に撤廃されました。いきなりウィズコロナの態勢となり、凄まじいスピードでみんなコロナにかかっています。一説によると、僅か1ヶ月で中国の約8割以上の人がかかったとか。実際私の親戚や知り合いも、知っている限りの人は漏れなく全員かかったそうです。若者や中年までの人はそのうち自然と治っていった人が多いようですが、お年寄りにはあまりにも残酷の嵐となっていました。

私のおじいちゃん、90歳近くの高齢で、これまで高齢者施設でほぼ寝たきりの生活を送っていましたが、年末にコロナで天国へ旅立っていきました。時期も時期で、お葬式もできず、家中の者は、悲しみに沈んでいるうちに、2023年が訪れてきました。

日本にいる私も、12月はじめにコロナが爆発した頃から薄々不安を感じていたため、父からの電話にいつもビクビクとしていました。ついにその日が来て、テレビ電話の向こうの父が涙ぐみながら、私がずっと恐れていたことを口にし始めたと同時に、泣き崩れて言葉にもならないぐらい。このような時期で、帰国もできず、おじいちゃんの臨終にすら立ち会えない悔しさが胸いっぱいになり、親の前では涙を見せなかったが、年末年始の間ずっと家でお酒を飲んで、幼き頃を思い出して涙に明け暮れる日々を送っていました。

生まれてから小学校に上がるまでは、共働きの親にかわり、おじいちゃんとおばあちゃんが私を育ててくれました。記憶の中のおじいちゃんはずっと、町内を自転車で走り回る腕白な私を後ろから怒りながら追いかけていて、あんなに大きくて強くて、そして暖かいおじいちゃんの姿は、なぜあのように痩せ細く、か弱くなっていったのだろう。いつまでも怒りながら後ろから追いかけてきて欲

しかつたのに、それはまた夢よりも儂い願い事でしょう。

私の好きな漢詩に「人生天地間、忽如遠行客」があります。人生は天地の間に生を受け、その一生はまるで遠くへ行く客のごとく。おじいちゃんは客人の生涯を終え、元より来た所へ帰った、と自分に言い聞かせました。私にできるのは、今度生まれ変わる時にもっと楽しい人生を願うばかりです。

コロナで大切な人を失った人は大勢いるでしょうが、生きている人は心を強くして生き続けなければなりません。思い出を胸に大切に持っていたら、きっとおじいちゃんの大きくて強い姿も私の心の中で色褪せることなく生き続けることでしょう。

## <京都のオーバーツーリズムについて>

氏 名：許 俊暉（キョ シュンイ）  
任 命 年 度：令和元年度任命  
出 身 地：香港  
在 住 地：京都市在住



先日、両親は京都に来られて3年ぶりに会いました。コロナ禍以来自分は香港に帰られなくなり、規制が緩和した現在でも博士論文のために研究室から離れないので親たちがこっちに来ることになりました。

せっかく京都に来たので色んな観光スポットへ案内したところ、昔ほどではないですが観光客の数はだいぶ戻りました。金閣寺や清水寺、八坂神社など京都の代表的な世界遺産を案内して、確かに町の雰囲気も景色も素晴らしいですが日本文化に詳しくない親たちはやはりそれぞれの差がよく分かりませんでした。そこで、親たちは「京都府あんなに大きいのになんで京都市だけ人が集まるだろう」と尋ねました。

確かに、観光スポットだったら京都市以外にもたくさん魅力的なところもあるのに結局外国人は京都市だけに泊まるが多かった。

ネットで調べたら「オーバーツーリズム」というキーワードが出てきました。京都市観光協会によると、オーバーツーリズムとは観光地に観光客の需要が集中して周辺の住民の生活にも与えるほどの混雑を起こす現象であります。協会は特定の時期に着目してなるべく観光客を夏・冬の閑散期に分散するために期間限定の国宝等の文化財の特別公開や朝・夜観光の推進など様々対策を考えたいようです。例えば、嵐山では紅葉シーズン後に「花灯路」と銘打ってライトアップイベントを行いました。

しかし、京都市にフォーカスして観光シーズンを一年中に分散するよりもっと俯瞰的な視点で観光客を京都府全体にバランスよく広げることが大事ではないかと考えます。特に京都三大祭りや五山送り火など開催時期が決まっている行事はどうしてもずらせないので他の地域へ誘客する必要があると考えます。

自分は2022年10月に京都府広報課の依頼により友好大使として森の京都のPR動画撮影を参加させていただきました。その時は京丹波にある美山町へ訪れ、

かやぶきの里と鹿肉など森の恵みを満喫しました。京都市では決して体験できないことばかりですごく魅力的だと思いました。美山町から帰ったら早速友達におすすめしましたが、交通が不便でなかなか行けないと思う人も多くいました。

つまり、京都府の他地域の魅力はすでに広がっていると想定したら問題は交通手段にあると分かりました。美山町では、京都市の混雑時期（春・秋）に限って京都市から美山町への往復の直行バスの本数を上げることや、森のごちそう祭りみたいなギミックを作って誘因を作ることができると思います。さらに、舞鶴や綾部みたいな京都市から離れているところでは交通・観光スポット・宿泊をセットにしたお得チケットを販売する策が考えられます。自身と友達の経験を基ついての提案ですが京都市の混雑時期であればあるほど比較的安い価格で誘客し、それと合わせて便利な交通手段を整うのがオーバーツーリズムの根本的な対策ではないかと思いました。

将来は京都と言えば清水寺以外にも美山町や亀岡などの答えも聞けたらオーバーツーリズムが解決した証となるでしょう。



↑美山 かやぶきの里



森のごちそう ロースト鹿肉丼

## <活動報告>

氏 名：金 亦衛（キン エキエイ）  
任 命 年 度：令和元年度任命  
出 身 地：中国・上海市  
在 住 地：京都市在住



2022 年下半期からはコロナ行動制限の緩和が進む中、多くの魅力的な大使活動を参加することになりました。

また、今年は社会人になって3年目になりました。これからも頑張りたいと思います。

活動実績：

2022年3月22日 森の京都ツアー

2022年7月13日 京都府立峰山高等学校

2022年7月15日 京都府立鳥羽高等学校

2022年8月4日 留学生ビジネス日本語研修交流会

2022年9月7日 令和4年度第1回定例会

2022年10月26日 京都府立南陽高等学校附属中学校

2022年11月3日 京都府民交流フェスタ

2022年11月5日 公益財団法人全国社寺等屋根工事技術保存会

2022年11月18日 お茶の京都DMO

2023年1月31日 京都府舞鶴市立中筋小学校

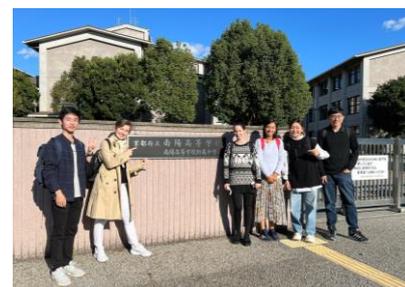
2023年2月3日 留学生ビジネス日本語研修交流会

2023年3月5日 お茶の京都ツアー

2023年3月7日 福知山市立夜久野学園

今年度も積極的に参加したいと思います。

引き続き宜しくお願い致します。



## <点描の幸せ>

氏 名：黄 媚陽（コウ ビョウ）  
任 命 年 度：令和元年度任命  
出 身 地：天津  
在 住 地：東京都在住



東京で新しく知り合った友達を連れて、久しぶりに京都に帰りました。わくわくの気持ちを抑えきれずに新幹線の席で京都に住んでいた時の思い出話を永遠に語っていました。アナウンスから「まもなく、京都です」の音声 flowed されたとき、心のドキドキが止まらなく、まるで遠距離中の恋人と数秒後にすぐに会えることが分かった瞬間の少女のようでした。友達曰く、目が非常にキラキラしていたそうです。

「京都が本当に好きなのだね」

「私の第2故郷だから」



京都駅に着きまして、私は昔の“地元民”として、京都に来るのが初めての友達に“マウント”をとりながら、自慢げに京都の美しさを紹介し始めました。たまにすれ違った通行人の話声は耳を掠めていって、懐かしい京都の方言を聞くと、いろいろな思い出が再び蘇るのです。少しお腹がすきましたので、友達と一緒に京都駅付近にあるお茶漬けのお店で食べることにしました。



優しいピンク色のライトに包まれている京都タワー、カラフルに彩られた京都劇場の看板、古風な建物と現代のビルが立ち並んでいる京都ならではの街道、何気なく散歩したら心が落ち着く京都の鴨川、伝統や文化、日本らしさそのものを感じさせられる京都の町並み…京都での物語はあまりにも多すぎて、語ってもなかなか語り切れませんでした。そろそろ行きましょか？会計を済ませた後に、店員さんの明るい「おおきに～」が聞こえました。

昔、住んでいたところを案内しようと思って、烏丸御池まできました。京都で

一番好きな場所を聞かれたら、思わず烏丸御池と答えるのです。京都のビジネス街であり、静かで便利で心地よく住める住宅街でもあるのです。町並みがとにかくきれいで、おしゃれなカフェや知る人ぞ知る隠れ家がたくさんあります。

おやつの時間です。烏丸御池の町を目的もなく歩いてみたら、抹茶の専門店が目の前にありました。抹茶好き同士ならたまらないでしょう。

お店に入った瞬間、言葉にできない、芳ばしい抹茶の香りに溶け込んでしまいました。早速、席に案内され、メニューを渡されました。普通のお茶はもちろん、ラテアートのデザインや種類なども選べるのです。せっかくだから、3Dラテアートに決めて、デザインをワンちゃんにしました。店主が2匹のワンちゃんを繋げてくれたのです。これを見たときに、友達と二人で大喜びでした。店主さん、流石にセンスが良すぎませんか？



美味しいご飯と可愛いおやつを堪能した後、私たちは散歩しながら鴨川へ向かいました。それほど時間はかからなかったです。

京都市の中心地を流れる鴨川は、親子連れや、カップル、地元の住民、観光客など、誰にとっても心安らぐ空間です。人々は、サクラやエノキなどの並木の近くに座って休憩したり、水辺に遊んだり、散策したりしているのです。私たちもその中の一組で、気持ちいい風に当てられて美しい自然に包まれ、他愛もない会話をしながら目の前の景色を満喫していました。瞬きも惜しいほど、絵のような光景に、心が癒されました。

「幸せってなんだろう。」

「さあ、今じゃない？」



## <ベルギー人の親日性>

氏 名：サブーナス アウドリュース  
任 命 年 度：令和元年度任命  
出 身 地：リトアニア  
在 住 地：東京都在住



この一年間半「欧州の都」で暮らしており、時間が経てば経つほどブリュッセルに馴染んで来た。とはいえ、この記事を書くときはちょうどブリュッセルから引っ越す頃なのだが、ブリュッセルにいながらも日本との関わりを強く感じたので、この記事で印象を記したい。

私の経験では日本を好きな欧州人は多いが、ベルギーでは特に日本文化が人気なのではないかと思う。勿論外交史を辿れば浮き沈みはあったのだが、日本とベルギーの関係は1866年から続いている。欧州の国にとっては、長い期間に渡って国交があると言える。その影響でベルギーの当て字もある（白耳義）。ベルギーの社会がかなり親日であるのには驚かない。以下は私の弁解である。

聖ペテロヴォルウェ区というブリュッセルの住宅地区に引っ越すと、この周辺で暮らす人々が日本の植物を愛好している事が判明した。私の暮らす一軒家と同じ通りに面している家の庭には、日本の楓（紅葉）が植えられており、徒歩圏内で竹や桜にも遭遇する。そして、まさか日本人の経営するパン屋さんが歩いて四分の距離にあるとは…更に、隣の区にはブリュッセル日本人学校もあり、ブリュッセル在住の日本人は三千人を超えているらしい。この日本人学校は外から眺めた事しかないが、規模は随分小さいものの、日本の中学校や高校と似たような建築に見受けられ、周囲の建物の中でも目を引いた。日本人学校や日本のスーパーなどを見かけると、ブリュッセルで暮らす日本人がここでの暮らしをどう感じているのかに思いを馳せる。日本とベルギーは両方とも立憲君主制の国なので、共通点は多いのではないかと思う一方、異なる点もある。第一に、ベルギー（特にブリュッセル）は完全にバイリンガルな国であり（ブリュッセル自体はフランス語圏であるが、駅名等はフランス語とオランダ語の二か国語表示である）、ブリュッセルにはブリュッセル出身の所謂地元の人より、外国人の暮らす割合が高い。大まかにベルギーの北部はオランダ語圏、南部はフランス語圏であり、東の端には僅かながらドイツ語圏も存在する。外国人が多く暮らす影響で、仏蘭独以外のあらゆる言語もよく耳にする事が出来、この中に日本語も含まれる。

ブリュッセルの中心部から南西約 20km に位置するルウ＝サン＝ピエール (Sint-Pieters-Leeuw) という小さい町には、日本の品種の薔薇が植えられた庭園がある。この庭園の中心には日本の枯山水に似せた小さな石庭があり、庭の中心に据えられた記念碑には鶴が刻まれ、庭の中心の道を守るように鳥居も建てられている。



昨年末に、ブリュッセル芸術歴史博物館で新版画の展覧会を訪れた。私が浮世絵に興味を持ったきっかけであり、『富嶽三十六景』のような浮世絵の傑作を日本でも欧州でも拝見したことがあるが、新版画という概念自体が初耳であった。新版画とは、明治三十年前後から昭和時代に描かれた木版画を指すらしい。浮世絵そのものとは異なる点もあるものの、基本的に浮世絵の復興運動とも言えるようだ。展示会では220の作品が展示され、三ヶ月に渡って開催されが、私が美術館を訪れた土曜日は、絵をゆっくり観るのが難しいほど大勢の人で混雑しており、ブリュッセルの人にもこの日本の芸術の価値が伝わったようだ。最も印象的だった作品を選び出すのは難しいが、川瀬巴水と小原古邨の作品に特に興味を引かれた。ベルギーに暮らしながら、日本文化に関する知識を得られて嬉しく思う。



ブリュッセルの東約 80km に位置するハッセルト市には、ヨーロッパ最大の日本庭園 (Japanese Tuin)があるらしく、ベルギーで見残した場所の一つだ。

この一年間欧州委員会で働いていたが、所属していたユニットも親日だった。部長は日本に滞在した経験があり、日本語も流暢に話せる。他の同僚の中にも、京都を観光した景観があり、日本の宗教に興味があり、和食や、スタジオジブリのアニメ映画が好きで、挨拶程度の日本語なら話せる人もいた。今年また日本に戻るが、元同僚たちが「今度日本で会いましょう」と言ってくれた。

## <コロナ後の中国社会>

氏 名：宋 円夢（ソウ エンム）  
任 命 年 度：令和元年度任命  
出 身 地：中国浙江省  
在 住 地：京都市在住



2019年12月から、世界的に流行っていたコロナ感染症が急に爆発し、それ以後の我々の3年間の生活に想像しがたいほど大きな影響を及ぼしてきた。この3年間のあいだに、中国に帰国することは、中国人でさえ大変なことになった。往復30万円以上の飛行機の切符代以外にも、3週間ほどの隔離が実施されていた。やがて去年の後半に10日間、そして8日間の隔離まで短縮されてきた。今年の1月88日から、隔離という海外にいる中国人を困らせた政策がやがて撤廃され、歴史となった。この3年間に、国際移動はともかく、中国国内の移動もかなり難しいことになり、濃厚接触者になった場合は、いずれも一週間ほどの隔離が強制的に行われていた。そのため、市と市のあいだの移動ですら、リスクが高いと思われ、制限されていた。ところが、中国は去年の年末に、急に「ゼロコロナ」政策をやめた。そして、今年3月から、日本もマスクをしなくて済むことになる。この3年間ですでに歴史になった感じがするが、我々の生活、特に中国社会に生きている人々の生活には大きな影響、あるいはダメージを与えていた。この影響はいまでも残っており、これからの数年間、さらには数十年間にも残るだろう。

わたしが去年の12月に、3年ぶりに一時帰国した。8日間の隔離が解禁された後、すぐに政策的な風潮が一気に変わったという不思議な時期を経験していた。いま振り返っても、夢みたいな感じだった。12月5日に隔離が終わって、その時はまだ交通機関を利用したり、スーパーに行ったりする際には、健康なことの証明となる「緑のQRコード」を提示することが必須だった。日本で比較的緩いコロナ対策に慣れたわたしには、この緑のQRコードがいつか黄色、または赤になる（隔離されること）ことになりかなり心配していた。その心配で、帰国する前の何ヵ月ほど、焦りながら過ごしていた。コロナの中で、飛行機の切符が急にキャンセルされたり、知らずのうちに濃厚接触者になったりするなど、どんなことでも不安定になったことがこの焦りの原因だと思う。

しかし、ただ2日後の7日の朝、モールに入ろうとした際に、「緑のQRコード」のチェックを受けなくていいと言われて、ショックを受けた。その場で、すぐスマホを出してチェックすれば、わたしが知らないあいだに、「緑のQRコード」の時代がすでに歴史になった。その場で、涙が出るほど感心した。言葉で表

現できないほど、この3年間の悔しみ、寂しみ、そして無力感が一気に湧き出した。

12月の「ゼロコロナ」政策の終了と共に、中国では大量な感染者が現れた。わたしは帰国する直前に、3回目のオミクロン株に対応するワクチンを打ったおかげで、感染しなくて済んだが、周りにはほぼみんながせめて一回が感染した。そのせいで、政策が変わる前より、外に出られない、または出たくないと感じた人、特に年上の方が多かった。ポストコロナ時代における「ゼロコロナ」に対する支持も、ネットで炎上していた。

今回の政策の急転換は誰も予想できなかった。そもそも8日間に短縮された隔離にすでに感謝している人々は、これからも5日間、3日間というスピードで短くなるのではないかと思っていた。わたしもその一員だった。誰も突然なゼロコロナ政策の終了を思わなかったため、解熱剤を買ったり、PCR検査キットを用意したりする対応ができなかった。そのために、12月に大量に感染者が現れたと同時に、風邪薬の在庫不足が大問題になった。風薬の値段が急に上がって、それでも入手できないのは普通だった。わたしはすでに身近なコロナに慣れたが、慣れていない多くの中国の人々には、どれほど恐れていたことを実感した。昔の友達を呼んでも、誰も出てこない状態だった。1月に入ってから、高齢者の死亡率が高くて、火葬場に行っても、列を並ばないといけないニュースがあった。日本でも放送されたらしい。事実かどうかはわからないが、周りの人々の話を聞くと、多くの人々はそれがなさない事実だと信じているようだ。人々の精神的な不安を感じた。

コロナ対策の急転換の理由について、2022年1年間に、人々が市からも出られないほどかなり厳しい制限を受けていたのは重要なポイントではないか。この3年間に、自営業、旅行業、小売業など、さまざまな商売が大きなダメージを受けた。そのため、2022年後半に、上海、広州などの多くの都市では、コロナ対策に対するデモが行われた。これはデモに対する規制（デモしたい場合は申請しなければならなくて、今回のデモのメンバーはVPNを使って、中国で使えないツイッターを通じて集まったらしい）が厳しい中国では、庶民たちの我慢の限界を表しているだろう。そして、中国では「どれほど大きな疫病でも、3年を超えると、世間が混乱してしまう」という昔からの言い方があり、古来の歴史、文化的な認識でも、3年を超えると、国が崩れてしまうと思われる。経済不況、厳しい制限、文化的な認識、これらの理由により、コロナ対策の急転換がなされただろう。

このような経緯で、中国社会も3年間のコロナを乗り越えて、人々が普通な生活に戻りつつある。コロナで受けた経済的なダメージだけではない、人々が精神的に受けたトラウマもいち早くでも回復できるように。



2023年1月1日の安昌古鎮、観光客が増えてきた  
本人撮影

## < 「現場」 へ >

氏 名：王 艶文（オウ エンブン）  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：中国河北省  
在 住 地：京都市在住



ある歴史の先生がこのように言われた。「過去というのは、外国みたいなものだ」<sup>3</sup>と。時代の隔たりがあるから、我々の現代の人が遠い昔の人の生活や考えなどが分からなかったことを表す言葉である。遠い昔ではないものの、故郷に帰れなかったこの四年間の生活を通じて、この言葉の意味をよく分かってきた。

国から国へ自由に移動できる時代に、いつも夏休みに帰国し、普段は祖国を離れている隣国に暮らしても、家族と友人が暮らしている環境に対してある程度に把握できる。しかし国際間の移動が難しくなると、こうした状況が変わっていった。幸い、今はネット時代である。帰国できなくても、ネットで中国に関する情報を得るし、ビデオ電話も何時でもできるから、大丈夫。だか、本当に大丈夫だろうか。ネットの力に頼って本当に「幸い」と言えるだろうか。

最近上海に仕事をしている日本人の友人と話をした際、「中国人ですからよく中国のことを知っている」と思い込んで中国事情についていろいろ言っただけでも、かなり古い情報や間違い情報を伝えて、逆に外国人の日本人の友人（中国にとって）に正された。その時、直ぐに冒頭に記していたこの言葉を思い出した。

「過去というのは、外国みたいなものだ」。どういうふうにこの文を理解して良いだろう。やはり時間的或いは空間的な隔たりがあれば、つまり「現場」から離れると、その場の状況が分からなくなってしまう。現場にいないから状況が分からないという自覚があればまだいいけれども、ネット時代の場合、どのような情報でも、いくらでも何時でも手に入るので、現場にいなくても分かるという錯覚を持っている人が多くなっている。結局、時間と空間の距離をぼやかすネットの力を過信過ぎる人々は、「現場」を理解はおろか、分かることさえもできないだろう。

ネットワークはいくら便利にしても、やはり限界がある。ネット時代に生きて

---

<sup>3</sup> 趙冬梅『人間煙火』により（中信出版集団、2021年）

原文「過去是一個外國。」

いるからこそ、そうした短所を看破しなければならない。ネットワークは確かに世界を知るためのすばらしい手段にはなるが、「現場」を理解するには、やはり時間と空間の距離を越えてその場に行き、自ら体験しなければならない。現場に行くのは難しければ、隔たりが存在することを意識して、ネットだけではなく、たくさんの媒介を使って、生き生きした「現場」に近づくのが大事だと思う。これも国際交流活動の意味だろう。「現場」のことを伝え、差異を意識させ、そしてお互いの理解を促進する。今書いていることは、最近意識していることではあるが、異文化交流を参与している一人として、最も言いたいことでもある。

だから皆さん、「現場」へ。「現場」への橋になれ。

## <フルンボイル市の紹介>

氏 名：王 哲（オウ テツ）  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：中国  
在 住 地：京都市在住



実家のフルンボイル市を紹介する。

フルンボイル市（フルンボイルし、慣用読み：ホロンバイル、モンゴル語：ᠮᠣᠨᠭᠣᠯᠤ ᠪᠤᠶᠢᠷ ᠭᠣᠲᠤ、Kölon Buyir qota、呼倫貝爾市）は、中華人民共和国内モンゴル自治区北東部に位置する地級市。市名はモンゴル語で、地区に含まれる湖であるフルン湖（呼倫湖）とボイル湖（貝爾湖）に因む。東西 630 キロメートル、南北 700 キロメートル、総面積 264,000 平方キロメートルで、山東省・江蘇省の面積の総和より大きい。人口約 269 万人。（Wikipedia）。世界一広い草原を有する。

フルンボイル草原は、フルンボイル市の西部に位置し、草原にあるフルン湖とベル湖がその名の由来となっています。

フルンボイル草原は毎年6月から9月までがシーズンで、休日のドライブにとても適している。特に7～8月の草原が青くなり、乗馬や釣り、西部のフルン湖で船を乗るのを楽しめる。フルンボイル草原やバヤンホシュオ草原などの観光地では、モンゴル相撲や弓道、乗馬などが楽しめる。また、パフォーマンズや歌と踊りを楽しめるキャンプファイヤーパーティーが行われ、ユルトに泊まって草原生活を体験することもできる。また、旧暦6月4日から始まる、盛大なナーダム大会が行われ、草原の豊かな伝統を感じることができる。

草原の北西に位置する満州里はロシアと接していったって、ラスボス広場を訪れ、中国とロシアの黄金色の夜道を歩くと、両側にロシア語のネオンサインが点滅し、モスクワの街角にいるような感じがする。

フルンボイルは早くから寒くなり、8月下旬には草が枯れ、葉が黄色くなる。しかし、9月中旬から下旬にかけては、東側の川や溪谷、湿地などを楽しむ絶好な季節。

フルンボイル草原では、臭みのないおいしい羊肉が有名なので、ぜひ試してみてください。満州里、ラブダリン、ハイラルには、いたるところにしゃぶしゃ

ぶや焼肉の店があり、本場の民族料理の手把肉（モンゴル語：Чанасан Max）、しゃぶしゃぶ、などが味わえる。少人数ならラムの羊の足焼きを、大人数なら羊の丸焼きを頼んでみてはいかがでしょうか。

## <六朝の古都、南京>

氏 名：郭 謹芸（カク キンウン）

任 命 年 度：令和3年度任命

出 身 地：江蘇省 南京市

在 住 地：京都市在住



南京は東呉、東晋、南朝宋、齊、梁、陳の首都に選ばれたことによって、六朝の古都や中国の四大古都に呼ばれ、中国初の歴史文化都市に選出された。また、近代において、南京は中華民国政府（現台湾地域）の法定首都として、数多くの歴史建築物や昔の文化がそのまま残されてきた。

南京の歴史が深いほか、文化教育にも重視し、世界的に有名な南京大学や東南大学を含め、合計68の大学が南京の地に集積されている。そして、南京の生活リズムは上海や北京などの大都市よりはるかに緩くて、仕事のほかに自分の趣味ややりたいこともしっかりとやることができる。以上の特徴をまとめて一見すると、日本の古都である京都と似ているところが多いであろう。

私は大使活動や国際交流の際には、日本人の方がほぼ中国について、上海、北京、広州、深センといった経済の急速に発展する都市しか知らない傾向が強く、南京の存在に気付かない傾向がある。逆も、中国の方は京都について旅行名所としての印象を受けるが、その裏にある歴史を深掘りする方が少ない。しかしながら、南京は歴史都市として、大都市にない昔から流れてきた文化や風俗があり、それを身で感じるしかできない。昔の中国は一体どのように変遷されてきたか、古代最後の漢民族が統治する明の時代にどのような出来事があったかは全て南京その都市の隅々で発掘できる。

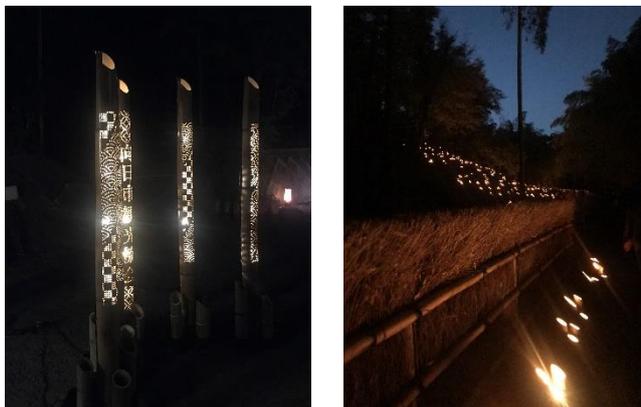
現在、南京空港は関西空港や成田空港と便を結んでいて、今後も那覇空港や中部空港、新千歳空港との便を再開する予定であり、ぜひ、アフターコロナのこの時期に南京を訪れてください。

## <多文化の類似性と相違性>

氏 名：ティンザー ニン  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：ミャンマー  
在 住 地：京都市在住



2022年月に10月に「竹の径・かぐやの夕べオープニングセレモニー」に参加しました。美しい竹のトンネル「竹の径」は、あたたかな光が灯る竹行灯が竹林を照らす癒しの空間です。このイベントの雰囲気は、ミャンマーのタディンジュ祭を思い出させます。イルミネーションで有名なタディンジュ祭は、ビルマの太陰歴の満月の日に開催されます。これはジョージア暦の10月にあたります。タディンジュ祭は、釈迦（Buddha）が天にいる母マヤにアビダンマを説いた後、天から降臨したことを歓迎するお祭りです。この祭りの間、街路やパゴダ（塔）、民家や公共の建物が色とりどりの電飾やロウソクで照らされます。そしてミャンマーの伝統的な食品を売る屋台や、おもちゃ、キッチン用品、その他便利な商品を販売するお店が通りにずらりと並びます。私たちは街を歩き回り、それらを楽しみます。灯籠がともる竹林を歩いていると、とても故郷が恋しくなりました。最後にミャンマーに帰ったのが約3年前、タディンジュ祭に行ってからもう5年以上経ちます。かぐやの夕べの雰囲気がタディンジュ祭に大変よく似ていたので、ホームシックが少し和らぎました。



竹の径・かぐやの夕べ

私たちは、京都の魅力を紹介するWEB動画番組「ANOTHER KYOTO MEMOIRS もうひとつの京都」を作りました。京都のお茶のエリアを見学し、在日外国人目線の番組作成を通して、京都宇治のお茶について知ることが出来ました。宇治の山城は高品質のお茶で有名で、その生産、生成、形成では800年以上の歴史があります。また、玉露・抹茶・煎茶などの緑茶発祥の地として知られています。ミャンマーにも古くからのお茶文化があります。お茶はビルマ語で「Laphet、လက်ဖက်」と呼ばれ、「လက်ဖက်」は、日本語や朝鮮語と異なる

り、中国語の「茶」を語源としないビルマ語独自の言葉です。私たちは茶葉を飲み物として、また調理して食します。茶葉で有名な食品には、緑茶 (ye i-nway gyan、ရေဓနွေးကြမ်း)、発酵茶葉サラダ (Lahpet Thoke、လက်ဖက်သုပ်)、ビルマミルクティー (Laphet yay、လက်ဖက်ရည်) などがあります。緑茶は、乾燥させた茶葉 (လက်ဖက်ခြောက်) を使って作られ、ミャンマーの国民的な飲み物です。また茶葉を発酵させてつくるサラダでラペットウツというものがあります。新鮮なトマト、にんにく、青唐辛子、千切りキャベツ、魚醤、ごま、ピーナッツ、油、ライムジュースなどの材料を混ぜます。ラペットウツを作る方法はいくつもあります。ミャンマーでは、どの家庭にも緑茶と発酵茶葉サラダが常備されており、お客様にお出しするのが、伝統的なおもてなしです。同じ茶葉が原料なのに、日本とミャンマーでは違う飲み物が出来上がります。これらから、茶葉に両国の類似性と多様性を感じます。



発酵茶葉サラダ(葉ペースト使用)

抹茶ともみじ和菓子

今なお多くの武力紛争や戦争が世界で起こっています。戦争は、植民地戦争、独立戦争、内戦、宗教戦争に分類できます。これらの戦争と紛争は、極度の暴力、死、社会的混乱、経済的損失、人種差別を人々にもたらします。戦争や紛争は、領土争いや宗教対立、ナショナリズムなど、さまざまな原因によって引き起こされます。世界は多様な民族とさまざまな信念で構成されているため、これらの紛争を軽減および回避するには、多文化の共生が非常に重要です。ここでいう多文化共生とは、民族、国籍、性的指向、宗教などの異なる人々が、地域社会の一員として、お互いの違いを認め合い、相互関係を築くことです。このような違いを受け入れ理解することで、多様な人々が共に暮らすことができます。それが新たな出会い・発見・革新(変化・改革)を生み出す原動力となり、市民・街・国の成長につながります。それにより私たちは世界平和という生涯の夢を実現することができると思います。

## <泉州の宗教文化>

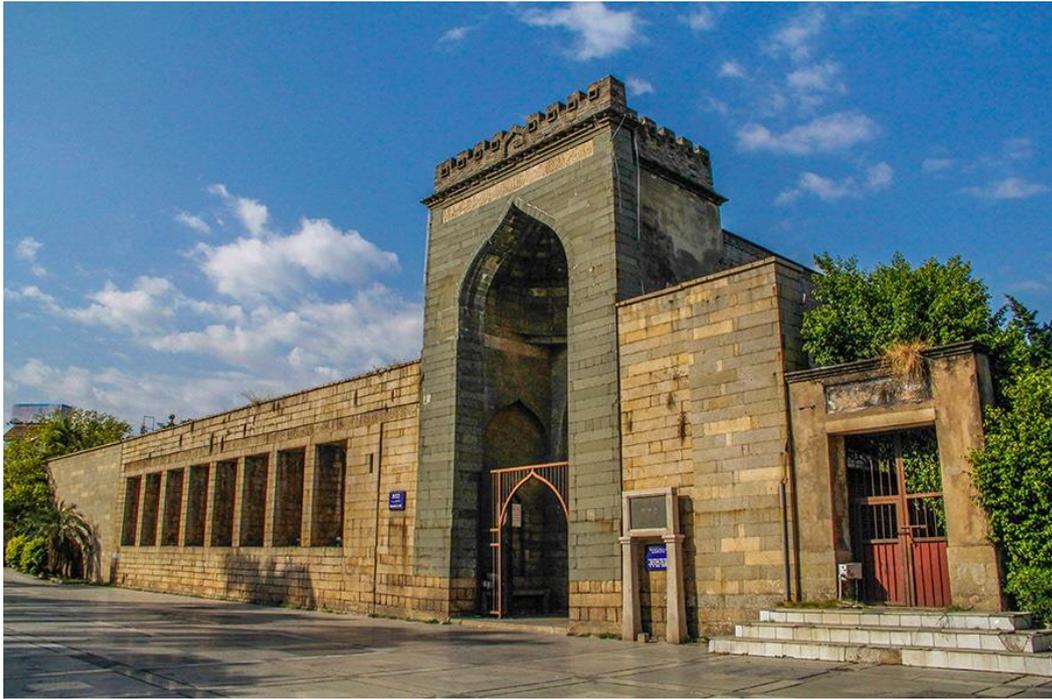
氏 名：楊 雅韻（ヨウ ガイン）  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：中国福建省・泉州市出身  
在 住 地：京都市在住



私の出身地は泉州市というところで、中国福建省の東南部に位置し、福建省にある三大中心都市の1つです。「北の西安、南の泉州」と言われるように、泉州はその歴史と文化で有名な都市である。積み重ねられた歴史と文化が豊かな遺産を今に伝え、有名な史跡や遺跡が市内のあちこちに点在している。ここでは古代から多数の宗教が共存し、東西の文化が溶け合って繁栄していた。さまざまな宗教遺跡が、歴史のおよび芸術的価値が非常に高い独特の文化的景観を作り出しているのです、その一隅を紹介したい。

世界宗教の博物館と呼ばれている泉州市の町を歩いたら、「三步進めば廟があり、五歩進めば寺院がある」という。その中で、三国志の英雄・関羽（Guan Yu）をまつた関帝廟とイスラム教寺院が隣り合わせ、仏教寺院にはヒンズー教の神々がまつられ、街にはキリスト教やユダヤ教の痕跡も残る。

まず、イスラム教と関係ある「清浄寺」を紹介したい。1009年、泉州に移住したアラブ系イスラム教徒の出資によって、シリアのダマスカスにあるイスラム教の礼拝堂を模した「聖友寺」とも呼ばれるモスクが建設された。1310年、ペルシャ（現在のイラン）のシラーズから来たイスラム教徒が寺院を修繕。現在の清浄寺は修繕後の遺跡で、その建築様式はイランのモスクとよく似ている。当時清浄寺の建設に携わったアラブ人の子孫たちは今でも清浄寺の近くに多く住んでいるという。清浄寺の建設は、海上シルクロードの繁栄と表裏一体の関係にあった。宋・元の時代、泉州は海上シルクロードの起点である「東洋第一の港」として発展した。インドやアラブ、欧州などからやって来た多くの商人たちは、泉州で自国の商品を販売し、磁器やシルク、茶葉などを買って帰った。また、一部の商人はそのまま泉州に定住し、それに伴って彼らが信仰するヒンドゥー教、マニ教、イスラム教、キリスト教などの宗教もこの地に根付いていった。



泉州市の清浄寺（参考サイトより）

次に、清浄寺のすぐ近くには、儒教を尊ぶ通淮関岳廟を紹介したい。もともとは、宋の時代に建てられた廟で、当時は水神を祀っていた。その後、明の時代になり、明太祖の朱元璋が、泉州の7つの城門にそれぞれ関帝廟を建てるようにと命令を下した。当時の泉州は時代が変わったばかりで混乱し、経済も未発達であったため、廟を建てるにもその能力がなかったため、水神を祀っていた廟を三国志の関羽を祀る関帝廟に変えた。民国3年(1914)に南宋の将軍・岳飛も祀るようになったために関岳廟となった。廟内は参拝客であふれており、泉州で一番賑わっている廟とよく言われており、かつ福建省で現存する最大の武廟である。面白いことに、近年電子マネーの流行と環境保護の重視という社会背景を基に、元々寺院などでお願い事をするときに偽の金を焼いたり、お賽銭をあげたりする習慣もあるが、これはキャッシュレス化されており、仏像の前に置かれたQRコードを読み取って賽銭し、油を添えるようになった。



泉州市の関岳廟（参考サイトより）

道教の寺院とイスラム教の寺院が併存するように、泉州市の街においては違う宗教が一つの空間で共存することはよく見える風景である。もし機会があれば、ぜひ泉州市に来て、信仰の異なる建造物は全部でいくつかあるのかを数えてみよう。

参考サイト

「東アジア文化都市・泉州(1) 絹の道が伝えた異国文化」『人民中国』

[http://www.peoplechina.com.cn/whgg/202108/t20210802\\_800254645.html](http://www.peoplechina.com.cn/whgg/202108/t20210802_800254645.html)

「通淮关岳庙」Wikipedia

<https://zh.wikipedia.org/wiki/通淮关岳庙>

## <祇園祭とボランティア活動>

氏 名：李 帆（リ ハン）  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：中国山西省  
在 住 地：京都府在住



2018年10月から留学して来日した私は、ずっと京都で住んでいるが、祇園祭に一度しか参加したことがありませんでした。2020年以後、新型コロナウイルスの影響で祭りの挙行は中止のまま、今年（2022）は三年ぶりの再開であり、ちょうどよく佛教大学の学生である私が授業の歴史民俗フィールドワーク体験事業を通して綾傘鉾のボランティアに参加しました。作業や仕事としては7月13日の鉾建て、16日夜の解体と17日の山鉾巡行での鉾曳きでした。その体験を詳しく述べる前に、一応祇園祭と山鉾巡行との歴史的由来や発展、そしてその民俗の内核、日本の信仰観念などを触れたいです。

### 祇園祭：

祇園祭の成立の背景は、昔、京都の夏季に蒸し暑い天気による疫病の流行です。平安時代、毎年流行った疫病は、実際には天気による食中毒や河の氾濫による伝染病だったが、当時の人々はその原因を憎しみを持った怨霊の仕業だと考えました。それらの怨霊を慰撫して厄災と共に都の外へ送る御霊信仰とインドから伝わった牛頭天王の仏教信仰と習合して定着すると、その思想による祇園祭（当時は祇園御霊会）が出現しました。

祇園祭の始まりはまだ明確ではないが、863年に朝廷主催の御霊会が神泉苑で行われ、その後も不定期にしていました。平安後期の10世紀末の頃に牛頭天王を祀る神仏習合の祇園社が成立し、ほぼ同時期に祇園御霊会が年中行事として定着したと考えられます。またその時、怨霊を鎮めたり慰撫したり送り出すために祭神を乗せて移動する神輿と、一定の期間で滞在する御旅所とも創設しました。神輿は東・中・西御座の三基（四角、六角、八角）で、御旅所は2か所があったが現在では四条寺町1か所だけです。

ところが、祇園祭でよく見られた粽は厄除けの力があると信じられており、そ



これは牛頭天王が蘇民将来とその子孫を助ける説話が日本で茅の護符になったからであって、「粽」は「茅巻き」の当て字なのです。ちなみに、ボランティアの褒美として粽をもらいました。

### 鉾と山：

祇園祭には14～15世紀頃、鉾や山が登場しました。鉾とは、「風流囃子物」という笛や太鼓などに合わせて踊る歌舞を意味するものであり、それは武器とする「ほこ（矛）」を飾り立てて周囲で歌舞を演じる芸能から発展して来たと思われます。よって鉾は必ず本体の真木があって、その先端に金属製の物をつけています。一方、山は見物客の目を引く見世物で、物語を演じる移動舞台です。その上に必ず松などの常緑樹が生えており、そこで伝説や説話の一場面を作り出して見世物を演じます。

もともと鉾や山は、疫神を集めて風流によって歓待・慰撫することから成り立ち、祇園御霊会の神輿渡御に付随した位置に付けたが、室町時代中期以降、鉾や山を経済的に支えた下京在住の商人層は財力が成長し、自らの商いをアピールする意図で競うように鉾や山を飾り付けました。次第に華やかな山鉾はやがて神輿以上に注目を集め、本来の神輿渡御の先触れであった山鉾巡行が独立し、主従関係の逆転が起こったのです。今は下京の町衆によって運営され、祇園祭とは全く別の存在であると言えます。



前述の通り、鉾は風流囃子物からなったもので、すなわち踊り子たちが太鼓などの楽器を演奏しながら移動することが基本・特質でした。しかし、現在の鉾の多くは、音楽だけの形で巡行しています。それに対して、綾傘鉾は「棒振り囃子」に代表されるような、囃子を伴う踊りが続いており、このように、綾傘鉾を含む傘鉾は、小さく見えるにもかかわらず、現在の山鉾の形態が完成する以前もっとも古い形、「鉾」本来の姿を残っています。また、神霊の依り代という役割を担った稚児も綾傘鉾に出ています。その歴史的な重要性が分かるのでしょ

### ボランティア：

さて、いよいよ綾傘鉾のボランティアとして実際の活動についてです。

鉾建ては7月13日（水）の朝からです。綾傘鉾にある善長寺町に着くと、作業が始まりました。主な役目は町内の方々に担当されており、私たちは補佐役として軽いものを運んだり神社の飾りをつけたりするにすぎませんでした。鉾の台座が出されてだんだんと装飾されて華麗になり、また周囲には看板や屋根、灯籠、露店などができるようになったらやはり達成感が湧いてきます。

鉦建てが完成してから宵山が開始し、女性たちが浴衣に着替えてちまき売りなどをし始めました。宵山が16日（土）のよるまで、私はその時早めに来て周りの山鉦を参観してから鉦の解体に従事しました。3年ぶりの再開のために四条通を中心に想像以上大勢の人が集めていました。解体が終わるまでも大部の人々が残っていたのです。

翌日、朝早くから集合し、鉦の本体2基の装飾が終わってからボランティアたちは着替えをしました。私が担当したのは2号機で、1号機や荷車の人と同じく装束としては足軽のような白い六尺半纏、地上足袋、陣笠でした。また他の人は旗持ちや稚児供傘が担当して、陰陽師のような狩衣を着用しました。町内の方々も稚児・演奏・棒振りなど役割によってそれぞれの装束、それ以外の町衆は袴でした。9時くらいで行列が町内から四条通に出て、40分の間を経て順番に従って巡行が始まりました。四条烏丸 - 四条河原町 - 御池河原町 - 御池新町 - 新町四条の行きで一周回し、途中いくつかの関所で神事を受けて棒振り囃子を見せ、周り大勢の観客による気分を沸騰させました。一周に2時間以上かかって、大部疲れました。

#### 感想と展望：

留学生の私にとって今回のボランティア活動は貴重な経験でした。来日してからいろいろな日本文化を体験したが、このように系統的に歴史・文化的事項を理解したのは今回の初めてでした。日本人の伝統行事に対して大切な気持ちや外来文化を吸収して自らの文化に変えて開花させることにも実感しました。祇園祭のような行事を開催することによって、日本国民がアイデンティティという絆のもとへ集める以上、外国人に対しても強くアピールしていると思っています。

一方、数日間連続の体験をもとにして少し展望や考えを敢えて申し出ます。まずは女性禁制について、祇園祭での女人禁制という問題の背後は、宗教的影響でした。前近代の諸地域において女性の血に対する穢れの観念を持つのが稀ではなく、「血盆経」という中国作の偽経をその思想を乗って、日本室町時代後期に庶民層まで広がっていました。このような女性蔑視の影響を受けて祇園祭でも女人禁制があるようになりました。ただし、既に現在社会に入った日本においては、伝統を守るためにその禁制を保つ必要はあるのでしょうか。やはり巡行の時に女性に行列の一役を担当させることからその改善を期待したいのです。



つぎましては環境問題です。宵山や巡行の時、使い捨てのプラスチックや紙の容器が山ほど集まっていることを指します。祭りが終わった後にきちんと回収したが、やはり無駄な浪費が存在していると思います。例えば巡行途中での給水場に、おかわりをもらおうとして飲みきれた紙コップを渡したら、スタッフの方がそれを断然捨てて新しいコップに水を入れてくれたことにショックを受けました。ややこしい人と思われるかも知れないが、利益や順調さを十分に承知した上でもっと環境に優しい販売方法または給水方法を考案したらどうかと強く思います。

#### おわりに：

午後1時ぐらい巡行が終わった後お礼として護符のちまきなどをもらってから、今回のボランティア活動は無事に終えることになりました。解散してしばらく河原町の本屋で休憩すると、せっかくだからやはり6時からの神輿渡御を見に八坂神社へ行きました。今年コロナの関係で神幸祭や還幸祭（前祭と後祭）のルートが大部縮小する予定だが、人々の熱意を全く止めませんでした。3基の神輿が前に「はいつと、はいつと」の掛声で進んで行ったことを注目し、今年祇園祭の観光者・学習者・参与者であった私はこれからも国際文化交流の役割をもっと果たしたいと決心しました。

#### <出典リスト>

- ・ 八木 透『京のまつりと祈り』昭和堂 2019, 5

## <京都をおもふ>

氏 名：劉 議蔓（リュウ ギマン）  
任 命 年 度：令和3年度任命  
出 身 地：中国四川省攀枝花市  
在 住 地：東京都新宿区在住



去年の4月から大学院に進学するために、京都を離れて東京に引っ越すことになりました。

京都から東京に移って来た外国人の私にとって、実際は外国の町から別の町への移動に過ぎないが、東京と京都の生活の違いが多いためか、京都に強い感情を抱いたためか、中国から日本に来た頃と同様に、京都を離れた私は再び故郷から離れたような気持ちになりました。東京のネオンサインが輝く高層ビルと賑やかな街の風景は中国の実家に似ているので親しく感じますが、どこか「ここは日本だよ」と気付かせる所があって、中国の実家に似たような風景を見えながら全然知らない町だよと違和感を覚えます。

京都に長年住んでいたせいかわ、心の中の日本はもっと伝統を重視し、落ち着いた雰囲気漂う神秘的な国のイメージが定着していたのです。

京都では、朝出掛けると、隣のおばあちゃんはいつも花に水をやりながら春の日のような暖かい挨拶をしてもらえます。小さい路地裏にある目を引かない豆腐屋さんやらが百年の老舗とか、朝から元気な声で客を呼び込む八百屋さんもあります。私は毎日のように新発見をしながら楽しく町々を散歩して、毎月三大市の開催日を確保して面白い品を探しながら楽しんでいました。

私はいつも鳥の鳴き声と自分の足音しか聞こえない静かな路地裏を通りながら、町屋の軒に切られて細長い四角の表装されたような空を眺めて通行していました。京都の古い木、かびの匂いがした湿気の重い、少し孤独の味を帯びた落ち着いた空気に包まれて、いつの間にかそれこそが日本だと納得してしまいました。

このような生活を日本の一般的な日常だと認識していました。京都を離れてはじめて京都の珍しさを気づきました。

東京はどこに行っても人がいっぱい、夜でも賑やかで明るくて、中国によく似ています。最初の頃は夜遅く出かけても安心だと感じましたが、最近は京都の薄暗い町の方が懐かしく思いました。

本当は東京の方が中国に似ているのに、京都を懐かしく思う私の気持ちがおかしいですね。

東京のマナーというか、性格というか、人々の付き合い方も少し京都と違います。京都の人はいつも周りを見ているように感じます。例えばスーパーの狭い通路で商品を見ているとき、京都人は周りに通ろうとしている人がいないかどうかを無意識的に確認していて、通りたがりそうな人がいると、京都人はすぐに通路を開けてくれます。

それで京都のスーパーでは「ここを通りたい」と少しオーラを出したら、ほとんどすぐに通れます。でも東京では、同じ狭い通路で商品を見ている東京人の横ではいくら「ここを通りたい」という雰囲気を出しても無駄です。東京人は周りを気にしないか、そのふりをしているか、通りたい人が押しのけない限り、通ることができません。

そして、いままでは京都でいろんな国際交流のイベントに参加して、ボランティアもしていたので、東京もこのようなイベントがないのかなと検索してみました。出てくる結果は「国際交流に参加することで、英語練習ができるよ」とか、「国際交流能力を身に着けるよ」とかの、「あなたがパワーアップできるよ」のようなメリット紹介がいっぱい書かれた有料参加のPRしか出ませんでした。京都の素朴なボランティア活動の楽しさを慣れていた私は「カルチャーショック」を受けました。

京都での国際交流イベントはほとんどボランティアの方たちが留学生を助けるために行っています。春のお花見、夏の鴨川デルタの花火、秋のフリーマーケット、新年の初詣など、その方たちは様々なイベントを開催し、留学生に日本の習慣を体験してもらいながら、説明もしています。私はこのようなイベントでいっぱい楽しく勉強が出来ました。その方たちは多分何も余分なことを考えずに、留学生たちに楽しく留学生活を送ってもらうためしか願っていないと思います。それに対して、東京の人は何かをする前に、自分にメリットがあるかどうかを判断する癖があるようです。確かに都市での生活が忙しく、メリットのないことをする時間が無いかもしれないと思いますが、やっぱり少しがっかりしました。これから様々な人と接することで、このネガティブな考え方を覚えてくれた人に出会えばいいなと思っています。

予想外のことですが、京都を離れることでかえって京都の特別な美しさを実感できました。京都の美しさは、四季とともに移り変わる自然景色、千年前の光景を思い出させる建物がもちろん、それらに比べてもっと美しいものは京都で生活している人です。アルバムに集めた京都の思い出の写真を一枚ずつ拾い上げて西南方向の空を眺めながら京都を懐かしく思いました。

## <蕎麦派？餛飩派？>

氏 名：梁 凱欣（リョウ ホイヤン）

任 命 年 度：令和3年度任命

出 身 地：香港

在 住 地：京都市在住



あなたは蕎麦派、それとも餛飩派ですか？「江戸の蕎麦屋、上方の餛飩屋」といわれるように、関東は蕎麦好き、関西は餛飩好きといわれています。まさにその通りで、京都人はお蕎麦よりも断然、お餛飩のほうが大好きで、お蕎麦屋さんに行っても、お餛飩を注文するくらいです。



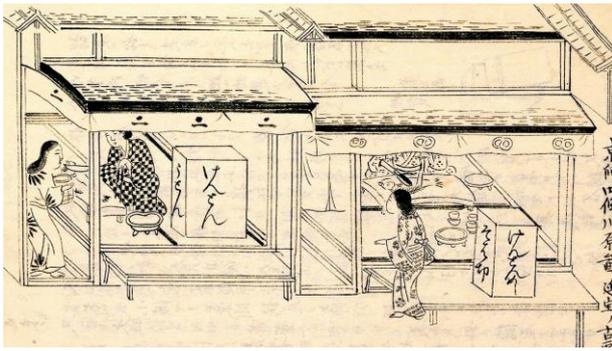
蕎麦



うどん

蕎麦の原産地は中国北部からシベリアあたりで、奈良時代以前に日本に伝わりましたが、長らく飢饉対策の雑穀とされ、もっぱら貧しい鄙の民びとの食べ物でした。たとえば、藤原道綱の子息で天王寺別当となった道命阿闍梨（中古三十六歌仙の一人。九七四～一〇二〇年）は諸国巡礼の旅の途中、山から蕎麦料理を供されて、「ひたはえて 鳥だにすゑぬ そま麦に ししつきぬべき 心地こそすれ」と、「鳥さえ見向きもしない」と詠むほど、見知らぬ食べ物に驚愕したのです。道命が口にしたのは、蕎麦の実の粥か、あるいは蕎麦粉を熱湯でこねて餅状にした「蕎麦搔き」でしょうが、都人の食膳には決してのぼることのない、粗末な食べ物であったのです。

しかし、江戸時代に入って寒冷地の開拓が行われるようになると、短期間で痩せた土地でも成熟する蕎麦の栽培が盛んになっていきました。現在「蕎麦」と呼んでいる麺状のものは、一七世紀初頭になって誕生し、「蕎麦搔き」と区別して「蕎麦切り」といいました。今日、蕎麦粉八、小麦粉二の割合で混ぜ合わせたものを「二八蕎麦」などと称していますが、つなぎとして小麦粉を混ぜるようになったのは、元禄年間から享保年間の頃のことです。



『守貞漫稿』京都の蕎麦屋・餛飩屋

京都人が愛してやまない餛飩は、一説に奈良時代に中国から伝わった果餅のひとつで、刻んだ肉を小麦粉で包んで蒸した「餛飩」であるといわれています。それは、古代、朝廷で元日・白馬・端午・重陽などの節会(天皇主催の饗宴)に供されたもので、天皇や貴族たちだけが口にすることができる高貴な食べ物で

した。京都人の餛飩好きは江戸時代中期にさかのぼります。一九世紀の江戸では一町に一軒の蕎麦屋があったのに対し、京都では餛飩屋が大繁盛していましたが、蕎麦屋は四～五町に一軒、あるいは五～七町に一軒という有様だったそうです。その背景には、貴人の食べ物であった餛飩をルーツとする餛飩と、どんな荒地でも栽培できる蕎麦との「格」の違いが作用しているのではないのでしょうか。さらに、蕎麦つゆは鰹出汁と濃口醤油と砂糖・みりんを煮詰めた「かえし」でつくられているのに対して、餛飩出汁は昆布をベースに鰹節を加えた出汁に薄口醤油で調味されており、これはまさに京都人好みの薄味なのです。今なお、「京は千年の都」といって憚らない京都人の嗜好は、これからも変わらないのでしょうか。

#### 参考文献

1. 小林明、江戸は蕎麦、京坂はうどん!：東西の麺文化の違いを克明に記した『守貞漫稿』(その2)

<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g00940/>

(2023年2月27日閲覧)

2. 鳥居本幸代、2019、『京都人のたしなみ』、p.4-60

## <ミャオ族の県—彭水>

氏 名：袁 月 (エン ツキ)  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：中国重慶市  
在 住 地：京都市在住



私は中国重慶市彭水県の出身です。中国の「県」は日本の「県」と違い、「市」より小さい所である。小さいとは言え、彭水県の総面積は3903km<sup>2</sup>で、総人口はおおよそ53万である(2020年の11月のデータにより)。京都市の総面積は828km<sup>2</sup>で、総人口は約145万人である(京都市情報館のデータより)。彭水県は京都市より約4倍広いが、人口は京都市の半分にも及ばない。

重慶市の東南部に位置する彭水県は、漢族だけでなく、ミャオ族とトゥチャ族が群居している少数民族自治県と認定された。彭水県で漢族は逆に、「少数民族」の感じがする。県内では、ミャオ族は人数が一番多い民族で、次はトゥチャ族、最後は漢族である。私の家族は、父はトゥチャ族で、母はミャオ族である。故に、私と妹はミャオ族である。ここで重慶よりあまり知られていない私の出身地である彭水県の、衣装や食べ物や建築などを少し紹介しようと思う。



彭水県のまち  
(彭水県政府ホームページより)

**衣装** 数十年前に、漢族の影響の下で、彭水のミャオ族人は、漢族人に漢化され、一般的に普通の洋服を着るが、重要な伝統的祝日は、ミャオ族の衣装を着て、踊ったり歌ったりすることが多い。ミャオ族の女の衣装は、とてもカラフルで綺麗である。刺繍もよく使われている。ミャオ族の人は胡蝶と牛を信仰しているので、蝶の模様はよく刺繍に使われ、髪につける飾りは牛の角のようである。ミャオ族人は、銀のような飾り物を髪や首や腕につけるけれど、全部銀ではなく、シルバーメッキで、中身は真鍮である。ミャオ族の結婚式で、お嫁さんは多くのアクセサリーを付ければ付けるほど、お金持ちと幸せと思われている。



(写真の提供：本人 私はミャオ族衣装を着ている様子)

**お祭り** ミャオ族は中国で色々な分支があり、重慶のミャオ族はその中の1つである。彭水県ミャオ族は「三月三」や「踏み花山節」などの祝日とお祭りがある。「踏み花山節」は彭水県で最も最大なお祭りである。儀式の時は、苗族の始祖とされる人物—蚩尤（チーヨー）を参拝する。彭水県では、いつも蚩尤九黎城という国内最大の苗族伝統建設群で儀式を行う。ミャオ族衣装を着て、踊ったり歌ったりする。



彭水県蚩尤九黎城で「踏み花山節」を行う様子（彭水県政府ホームページより）。

**ミャオ族料理** 重慶市で流行っている辛い火鍋は彭水県でも普通に食べられるが、それ以外の民族スナックはたくさんある。「三香」、「ズ卷子（嘟卷子）」と「ジャガイモ花（洋芋花）」は私が子供の頃から食べていたミャオ族スナックで、彭水県以外ではあまり食べられないものである。「三香」はスイートポテト、タマゴとお肉やお米から作ってきた食べ物で、フライや蒸しやバーベキューや火鍋に入れて食べるものである。仕上げ後、粉状の唐辛子をつけて食べる。「ズ卷子」はスイートポテトから作ってきたスナックであり、くるくる回っている様子で、「巻」と名付けられていると思う。蒸した後に、色々な調味料を入れて食べる。ちょっと特別なのは、唐辛子である。「ズ卷子」に使用する唐辛子は、「糊辣壳」という干し唐辛子である。炒めされた干し唐辛子をひき割り、絶妙な匂いがする。だが、「ズ卷子」はこの「糊辣壳」で、非常に辛いので、食べるのは要注意である。



ミャオ族のスナック、左からは三香、ズ卷子、ジャガイモ花。袁若男氏提供。

**建築** 彭水県では、「吊脚楼（ちょうきゃくろう）」というとてもユニークな建築様式がある。斜面の多い地形に懸造（かけづくり）と同様に柱を長く突き立てて高低差を処理したもので、吊脚楼と呼ばれる。私が子供の頃は、よく吊脚楼が見られたが、都市化より多くの伝統建築はビルになってしまった。今の彭水県で、吊脚楼はわずかに見られる。残っている吊脚楼で、昔のミャオ族の風景が少し味わえると思う。

ミャオ族の様々な異なることがあるからこそ、彭水県はとても魅力的な所だと思ふ。都市化などの変化に影響されつつあり、昔のものがどんどん失われていくと思ふけれど、文化的景観や伝統文化を保全する必要性と緊急性があると思ふ。生物多様性のように、文化多様性や民族風俗多様性なども大事にすべきことだと思ふ。

## <故郷の食文化について>

氏 名：張 玥 (チョウ ゲツ)  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：中国南陽市  
在 住 地：京都市在住



私の故郷は中国河南省の南陽市である。南陽市は、中華人民共和国の華北地方の河南省西南部にある都市（地級市）である。中国の歴史や文化の中でも有名な都市の一つであり、悠久の歴史と卓越した文化を持ち、地理的条件と豊富な資源に恵まれている。

特産品として、やきごてで作る画、玉彫刻などがあり、人物については漢代の張仲景、三国時代の諸葛孔明などが歴史的にも有名である。特に三国志では諸葛孔明を三顧の礼によって軍師として迎える等の有名な場面はこの中国南陽市が舞台である。『三国志』をひもといたことのある人に、ぜひ訪れてほしいのは「臥竜崗」である。数々の有名な遺跡のほか、さらに、国営森林公園や世界的恐竜博物館などがあり、見どころが多くて人気の旅行先である。

食は現地の文化を知るために重要な要素の1つである。そこで、今回は主に南陽人の食について解説する。

### 胡辣湯（フーラータン）

胡辣湯は長い歴史を持っている。三国時代、曹操は隊列を率いて官渡で袁紹と対峙した時、曹軍の食糧は少なく、どうしようもない状況だったので調理人はサツマイモの実の部分と葉に糸のように細かく切った馬肉を加え炒め煮しとろみをつけ、長ネギ、トウガラシ、胡椒などの調味料や野菜を加えた料理を作った。兵士たちの夜間の空腹を満たすために作られたが意外においしく、腹もちもよかったそうだ。曹操もこのピリ辛で腹もちのよいスープを食べ、大絶賛し「糊辣湯」と名付けた。

胡辣湯の主な材料は羊の脂身、小麦粉、油面筋（団子の形で、一種の面類）などである。加えるトッピングにはニンニク、長ネギ、生姜、山椒、胡椒、ウイキョウ、八角、ピーナッツ、エノキタケなど20種類の調味料と野菜である。色はカレーのような褐色をしてとても美味しい。食べる前に胡麻油や黒酢を少し入れると香りが豊かになる。河南の人々は主に朝、胡辣湯を食べる。美味しく安い食べ物として河南の人々に好まれている。



### 羊肉烩麵（ヤンローフイメン）

「羊肉のとろみ汁麵」は肉や野菜などに汁、麵が混ざった伝統的な食べ物である。栄養が豊富で、おいしくて安いため現地の人々にとても人気がある。上等な羊の肉を選び、何度も湯通し血なまぐささを取る。そして調味料を加え煮る。麵は精製した小麦粉に塩、ソーダを少し入れ何度もこねてコシのあるものにする。こねたものを帯状に伸ばし、羊肉と一緒に肉汁がある鍋に入れる。最後にヤブカンゾウ、キクラゲ、コンブ、クコ、春雨などで盛りつける。シャンツァイ、トウガラシ、甘く味付けたニンニクなどをトッピングしても美味しい。

河南省ではこの「羊肉のとろみ汁麵」は万人に好まれる名物料理で、他の地域からも多くの人々が食べに来る。



今回は南陽市の食文化の代表的なグルメについて紹介してきた。河南省は長い歴史の中の古都が集まっている。政治の中心地でありながら、北方や西域の民族の食事の影響を非常に受けている。羊肉、香菜、胡椒などがよく食べられている。中華料理は多彩である。一方で歴史上、各地の食は交流し合い、変化してき

た。今後もまた進化し続けていくであろう。

参考文献：

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/kokusaikouriyu/664>

中国南陽市の主な観光地（漢画館、武侯祠、医聖祠）（閲覧日：2023.1.30）

<https://www.arachina.com/zhengzhou/food.htm>

「中国旅行 旅行ガイド」（閲覧日：2023.1.30）

## ＜京都と上海の懐かしい古い町並＞

氏 名：陳 秋帆（チン アキホ）  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：中国 上海  
在 住 地：京都市在住



「千年の都」と称えられる京都では、歴史のある神社や寺、お茶屋などがたくさん残っています。私も2022年で銀閣寺や永観堂、京都最古の神社と伝わる下鴨神社など様々な場所に訪れました。その中で、私にとって最も印象的なのは京都府南丹市美山町にあるかやぶきの里でした。そこには、約220年前の江戸時代から150年前の明治時代に建てられた茅葺き屋根の家屋が多く残されていて、今でも現存する50戸の家屋のうち39棟が茅葺き屋根の古民家です。美山町の北集落かやぶきの里にある民家は白川郷の「合掌造り」と同じく茅葺き屋根の古民家だが、「入母屋造」の中でも特に「北山型民家」と呼ばれていて、よりソフトな幾何学的な外観、家の中が田の字型の間取りなどの特徴を持っています。



かやぶきの里（2022年7月撮影）

かやぶきの里に入ると、まるで日本の昔話の世界にタイムスリップしたような感じがしました。

かやぶきの里を訪れる際に、出身地である上海の「朱家角」の古い街並みを思い出します。朱家角（日本語読み：しゅかかく/中国語読み：ジュージャージャ

オ)は上海にある有名な水郷であり、正式名称は「朱家角鎮(しゅかかくちん)」であり、正式名称は「朱家角鎮」です。ここは江南地域に存在する水郷古鎮の一つで、ヨーロッパのベネチアのような水の町で、昔ながらの建物が巡る水路に並ぶ歴史的な町となっています。

朱家角は今から1700年以上前の三国時代(220年—280年)に集落が形成された歴史ある水郷古鎮です。宋(960年—1279年)から元(1271年—1368年)の時代に自由市場が形成されると「朱家村」と呼ばれるようになり、明の時代に正式に鎮(町)となりました。明末から清初にかけて貿易が盛んで、現在では明清時代の建物が数多く残されている。そこで、個人的に一番印象的だったのが、江南において最古にして最大の石橋「放生橋」(1571年)です。「放生橋」は、水郷の中心を流れる漕港河という幅広い水路の上に架けられており、これほど広い水路と大きな橋は他の水郷古鎮にはほぼ見られないです。放生橋を北側に渡り、東井街を西に進むと左手に見えるお茶屋さん、阿婆茶楼(翰林扁額博物館)があります。そこで、「放生橋」を含む明清時代の街並みを眺めながらお茶やスナック菓子を楽しむことができます。他にも、中国と西洋の様式を組み合わせた庭園「課植園」や清の時代の郵便局「大清郵局」などたくさんの魅力的な建物があります。今後もし機会があれば、ぜひ上海のベネチアを体験してみてください!



放生橋



阿婆茶楼

<http://www.zhujiajiao.com/jp/> (2023年1月26アクセス)

## <花火>

氏 名：馬 韻婷（マ インテイ）  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：中国遼寧省瀋陽市  
在 住 地：京都市在住



今、目を閉じて、前回に花火を見たときのことを思い出してみてください。

それは、汗ばむほど暑い夏の夜、凝固するほど熱い空気の中で起こったことでしょうか？ 周りには浴衣を着た綺麗な女性の姿もあるでしょう。川の堤防や海岸がほとんどで、みんな良い場所を取るために早めに到着して、地面にピクニックマットを敷いて、虫除けのスプレーを吹きかけ、うちわを振りながらパートナーや家族と一緒に花火を待っているでしょう。

しかし、中国人、特に北方に住む中国人に同じ質問をすると、彼らは多分違う光景を想像するでしょう。十中八九、それは雪が降る寒い冬の夜で、手や耳が少し凍っていたことを思い出すと思います。もしかしたら、自分で花火や爆竹に火をつけたときの、どこか臆病でワクワクした気持ちを思い出す人もいるかもしれませんね。線香花火みたいな小さな花火しか買えない日本と違って、中国の打ち上げる花火や爆竹は、ほとんどが個人で買うものです。また、花火が売られている特別な爆竹の屋台もあります。中国では、旧正月の大晦日といえば花火が一つ代表的なものです。大晦日の夜で家族と一緒に水餃子を食べ、花火をするのがよくあることです。そのため、旧正月が近づいてくると、街中に臨時の爆竹屋台が出現し、大小さまざまな花火や爆竹が売られるようになっています。

十数年前、私がまだ小学生の頃には、花火は大晦日から旧暦正月15日まで打ち上げられたと記憶しています。正月15日は中国の元宵節で、家族で集まって元宵を食べて祝います。旧暦が遅い時期の年になると、元宵節になる前に学校が始まることもたまにあります（中国の冬休みは1月と2月で、後半の学期は3月から始まります）。だから、学校で爆竹の音を遠く聞いた記憶も残っています。爆竹は花火と違い、夜だけではなく昼間につけることも多いです。

しかし、火災の危険性や大気汚染の問題、新年に爆竹や大きな花火を打ち上げることができる期間は徐々に短くなってきています。また、爆竹屋台の収入が年々減少し、営業する屋台も少なくなっています。近年には、花火が完全に禁止されている地域も増えています。しかし今年は、3年近く続いていたコロナが収まることになり、政府は多くの地域を新年の時に個人で大きな花火を打ち上げ

ることを一時的に認める措置をとりました。

コロナ禍後、私も中国に帰省する機会がずっとありませんでした。今年はやつと三年ほど久しぶりに帰国できて、ちょうど旧正月にも間に合いました。なので、久々に祖母の家で花火を見ることができました。私の実家である瀋陽では、冬の気温は-20℃前後になることが多いです。私にとっては、花火が「ドーン」と空を打つ音を思い出すだけで、寒さが身にしみるような思いでした。しかし、その冷たさの中に暖かさがあるのは、いつも家族と一緒に見たからです。

花火は儂いからこそ、夜の空で爆発する瞬間が特に貴重な思い出になれます。日本人にとっても中国人にとっても、花火の思い出は、きっと暑くても寒くても同じように美しく貴重な記憶でしょう。国によって文化の違いがあるかもしれませんが、同じ人間である私たちの花火への感情はきっと似たようなものでしょうね。



(作者が実家で撮った今年の新年花火)

## <名誉友好大使として「日韓関係」を語る>

氏 名：尹 粹娟 (ユン スヨン)  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：韓国  
在 住 地：京都市在住



「わたし」はいくつかの世界に生きています。私は韓国という世界、また日本という世界、京都という世界でいろんな「わたし」として生きています。京都府名誉友好大使として何かを語ることは、いろんな主体としての「わたし」の経験を京都府民と共有することであると思います。

2022年12月18日、私は京都府名誉友好大使の自主活動として「「日韓フリーハグ」から考える日韓関係」をテーマにして語る会を企画しました。私は約7年前から日韓関係の改善のためにチマチョゴリを着て日本全国で「日韓フリーハグ」活動をしています。本語る会は主に私が「日韓フリーハグ」から経験したことや考えたことからアジア主義まで、実践と理論を同時に扱う内容で行いました。

「日韓フリーハグ」で私が気付いたことは、日韓関係は複雑である、ということです。これは当然なこと、良く耳にする言葉ではありますが、自分の身体でたくさん日本人とハグをしながら気づいた貴重な経験です。言葉では説明できない日韓関係を語ることの重さを私はより多くの人と共有することが語る会の目的でした。

語る会は「日韓フリーハグ」に関する好奇心から日韓問題に関する敏感な問題まで自由に話し合う雰囲気でした。私はこのような雰囲気こそ、今の日韓関係に認識されるべきであると思いました。日韓友好だけが強調されない、多様な意見、多様な日韓関係の形が共存できる雰囲気が今回の語る会に漂っていました。

語る会を終えて考えてみると、私がその時に共有したことは韓国人として、また京都大学の学生として、また京都府名誉友好大使としての「わたし」の経験でした。

私は韓国人です。また京都に住んでいる韓国人、京都府名誉友好大使として京都という世界に生きています。そしてこれから京都という世界で経験していくことを、より多様な角度から洞察し、多くの人々と共有できることを期待しています。

## <私のお正月>

氏 名：李 沫（リ マツ）  
任 命 年 度：令和4年度任命  
出 身 地：中国河北省  
在 住 地：京都市在住



中国のお正月は春節と言います。旧暦ですので、日本のお正月の日付とは違います。例えば、今年2023年の春節は太陽暦の1月22日で、去年の春節は太陽暦の2月1日でした。いつか春節は太陽暦の1月1日である年が来るかどうかは分からないですが、このように、春節と日本のお正月の日付が違いました。

それで、いつも時間のゆがみが感じていました。日本では、年を越え、気分一新して今年も頑張ろうと思っているとき、中国では、意気満々で新年を迎えようとしています。日本では、お正月の休みが終わり、また気を引き締め、働き出しているところ、中国では、お正月がまだですがもうすぐですので、ドキドキしておやすみモードに向かっています。

近年はコロナで、春節で帰省できなかったため、このように時間のゆがみを感じながら、毎年二つのお正月を過ごしています。

日本のお正月は静かなものだと思います。学校やお店が休みになって、外で走る車もほとんどないです。私は特に、この日で遊びに行くことや、お祝いをするををしていなかったからか、より静かだと思いました。家々でみんなは何をしているかといつも思います。

もし帰省するなら、私はいつものように、こうして春節を過ごすでしょう。

除夕（日本語では大晦日という）では、水餃子と羊肉のしゃぶしゃぶを食べるでしょう。日暮れになると、春晚（日本の紅白歌合戦に相当）を見るでしょう。次の日は春節で、まあまあ早起きして墓参りに行くでしょう。ほかの時間は家でゴロゴロするでしょう。またその次の日、次々の日……では、親戚や友達たちと集まるでしょう。久しぶり実家に帰ってくる人も多くて、親戚や友達たちに会うことで何日間もかかるでしょう。

日本のお正月が静かだと思ふ理由のもう一つは、特に私の小さい頃で、春節で爆竹や花火をやったからかもしれないです。除夕の夜に、晩ご飯を始める前に、お爺さんお父さんが爆竹をやります。また、この日の一晩中に爆竹の音が聞こえます。悪いものを払うためですか。めでたく新しい一年を迎えるためですか。うるさいとかもあまり思わず、これは「年味（お正月のフレーバー）」だと思います。

ちなみに、家のワンちゃんが爆竹のその大きな音が苦手で、いつも怖がって、ベッドの下に身を縮みました。いつもこのとき、よしよしとワンちゃんを慰めないと。

コロナが落ち着いて、帰省して家族と一緒に春節を過ごしたいと思います。



## 京都府

京都府国際課

Tel : 075-414-4312 FAX : 075-414-4314

E-mail : kokusai@pref.kyoto.lg.jp

☆友好大使の活動や友好大使が感じた京都留学の情報を  
発信しています。

京都留学情報 <http://studykyoto.wordpress.com/about/>



京都府名誉友好大使自主活動実行委員会ブログ

<http://kpfa1992.blogspot.jp/>

京都府名誉友好大使友好大使 facebook

<https://facebook.com/KPFA1992>